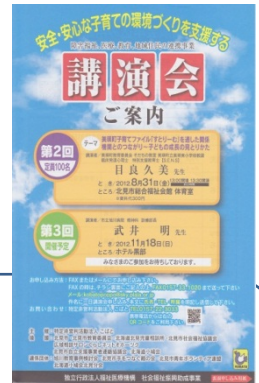


第2回 講演会報告

安全・安心な子育ての環境づくりを支援する

障がい福祉・医療・教育・地域住民の連携事業



日時	8月31日(金) 13:30~16:00
会場	北見市総合福祉会館 体育室
講演者	美瑛町教育委員会 そだちの教室 美瑛町立東小学校教諭 臨床発達心理士 特別支援教育士【S. E. N. S】 目良久美 先生
テーマ	美瑛町子育てファイル「すとりーむ」を通した関係機関とのつながり ～子どもの成長の見とりかた～

第2回目の講演会は、子育てする上で重要な「連携」でした。

いくら親ががんばっても限界があります。子育てに不安を感じたとき子育てに行き詰ったときはどこに相談したらいいのでしょうか？病気になる病院、勉強のことなら学校、いじめなら…どこ？でも本当は全部繋がっています。美瑛町の子育てファイルは、障がいの有無に関係なく母子健康手帳といっしょに渡されます。子どもが生まれ育ち、就学し、就労するまで一貫して活用することができます。子育てで困ったとき、行き詰ったときなどに親だけで悩まずこのファイルを活用することで関係機関（保健機関、子育て機関、療育機関、教育機関、福祉機関、専門医療機関）がつながり子どもたちの応援団となります。その子育てファイルを作った目良先生のパワーと愛情にあふれるお話で参加者はいつの間にか引き込まれて、楽しくとても有意義な講演会となりました。現役の教師として、また そだちの教室の心理士としてこれまでに相談を受けた子ども家族のエピソードを交えながら子育てファイル「すとりーむ」の取り組みを紹介していただきました。

○お近づきゲーム（なべなべ底抜け）

お話を聞く前に、輪になってジャンプ！？そして懐かしい「なべなべ底抜け」をしました。ジャンプすることで、脳が刺激をうけてお話しがスッと頭に入ります。全員が1つの輪になり一切口を開かずに行う「なべなべ底抜け」は、言葉ではないコミュニケーションや回りの人への配慮が必要でした。

○地域・関係機関の連携が必要

一人一人の児童生徒を生涯にわたって支援する。関係者・機関の連携による適切な教育的支援を効果的に実施

○子育てファイル「すとりーむ」

「すとりーむ」は子どもの成長を見つめ、保健・福祉・教育などの関係機関による連携した支援を受けることができるようにするためのファイルです。



(一部抜粋)